

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年12月22日～2019年1月4日の推移】

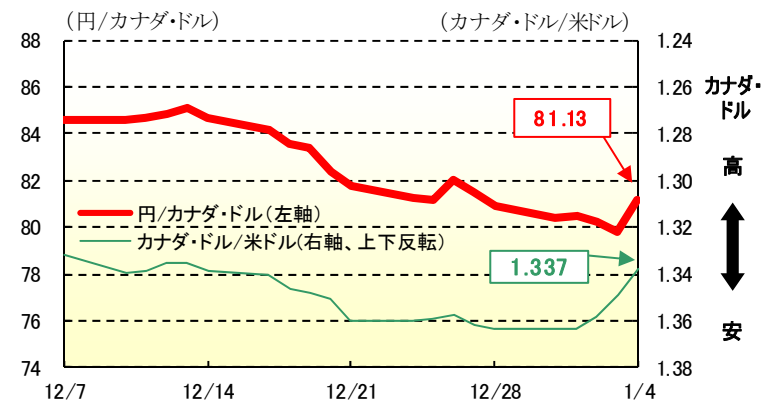
【1】先々週～先週の回顧

カナダ・ドルは、対円で下落しました。カナダ5年国債利回りは低下しました。

米政府機関の一部閉鎖や米中製造業の経済指標の悪化などを受けて、米国金利が低下、米ドル安円高が進行したため、それに連れてカナダの金利は低下し、カナダ・ドルは対円で下落しました。しかし、原油価格が堅調に推移したため、カナダ・ドルは対米ドルでは上昇しています。

また、先週、雇用統計が発表されました。雇用者数に関しては、予想通りの結果だったものの、失業率は歴史的低水準となり、平均賃金の上昇率は前月から加速しているため、総じて見れば堅調な結果になっています。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年12月7日～2019年1月4日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

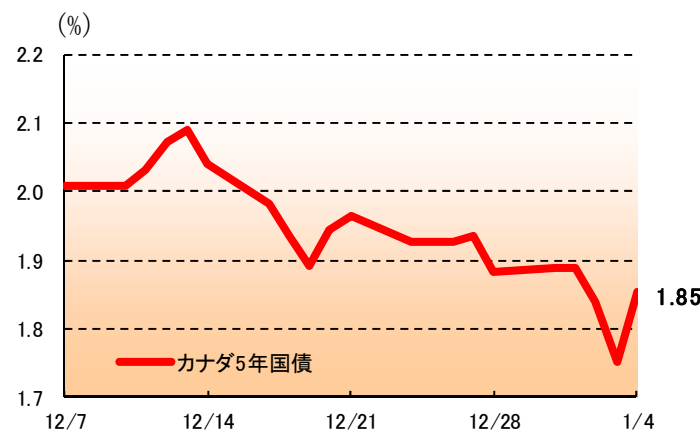
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

今週、カナダでは、住宅着工件数など住宅関連の指標が複数発表されます。また、カナダ銀行(中央銀行)の金融政策決定会合の開催が予定されており、政策金利は据え置きが予想されています。米国の利上げペースの鈍化、軟調なインフレ指標、原油価格の下落などを受けて、カナダ銀行の利上げペースの鈍化観測が高まっているため、今後の利上げペースに関してどのような声明文が出されるかに注目が集まります。

足元、株式市場は世界景気の後退懸念を背景に下落していましたが、売られすぎの反動や、米国の雇用統計が良好な結果であったことを受けて値を戻しつつあります。また、原油価格もサウジアラビアが原油輸出削減を計画との報道などを背景に反発しているため、カナダの通貨、金利を下支えすることが見込まれます。

【カナダ 金利推移】 (2018年12月7日～2019年1月4日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>